

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立岩小学校

校長名 酒井 立人

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・教育DXの推進と多様な学習形態により、個別最適な学びと協働的な学び、探究的な学びの充実を図る。 ・子どもの願いを生かした創造的・自治的な活動を展開し、自己実現する力を育成する。	A	・マイプラン学習(自由進度学習)をやって自分から学ぶことができるようになったという児童の肯定的評価については、93%であった。自ら学ぶ力が伸びてきたと考えられる。 ・学級活動や児童会活動の「自分たちの生活を自分たちで、よりよくしたり、楽しんだりしている」の評価が93%であり、楽しく活動に取り組むことができた。	・学年によって雰囲気は違うが、だんだん落ち着いてきている。タブレットが授業でも使われ、操作に慣れている。ICTも使うほど学力が落ちるといった報告もある。詰め込んだ授業にならないようにしたい。 ・学校教育目標を変え、児童が自ら動くことができるような環境づくりに努めていた。	・学校の教育目標を改善し、1年経った。自ら拓く力を育むための教育課程の工夫に努める。学びづくりで更なる重点的な活動として工夫した実践を推進していく。 ・事象を自分事として捉え、児童自らが「こうしていくとよい」という意識をもち、授業や児童会活動などで実践できるよう支援する。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・岩や岐阜市の人、もの、ことに関わる学習活動を充実させ、自分とつながって探求する学びを創る。 ・藍川中学校校区3校で目指す子どもの姿を共有し、交流活動を行うなど連携した指導に努める。	A	・「地域の人と活動したり、地域について学んだりすることは楽しい。」の評価が90%で、生活科・総合の時間に地域で学ぶ学習活動の更なる充実を図ることができた。 ・中学校半日入学や、中学校の全校研究会への参加により、中学校入学に向け児童の目指す姿を認識することができた。	・地域講師の高齢化により、地域と協働した活動の継続が難しくなる中、持続可能な活動になるよう方法を考えていく。 ・幼保小の交流、小中の交流を深めていきたい。教職員の交流を図ることができ、児童生徒の交流をより深めていきたい。	・総合やぎふMIRAI'sを中心に岩や岐阜市の人、もの、ことに関わる学習活動の内容の更なる改善を図る。 ・新たな指導計画をもとに実践し、改善を図る。 ・小中、幼保小の連携をさらに密にし、連続的、段階的な指導に努める。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・地域の方やPTAと協働して、挨拶を啓発する取組(あいさつ運動)を行う。 ・子どもが互いに尊重し合い、感謝やあこがれをもつことができるような関係を築くことができるようにする。子どもの良さを教員が見つけ話題にできる職員室にする。	B	・「進んで挨拶をしている」の肯定的評価が92%と児童の評価は高かった。 ・「ぼかぼかの川」(全校良さ見つけ)の取り組みは全校の子どもが学年を超えて良さを見つけ、毎日伝え合う活動を続けてきた。職員も良さ見つけを行うことで、児童の様子や生活について話題に上げ、励ますことができた。	・学校でのあいさつはできているという児童の評価であったが、地域では、なかなか進んで挨拶ができない。子供に挨拶できるようにするには保護者や地域の方も含めた実践が必要。 ・全校児童がお互いにうれしかったことを認め合う「ぼかぼかの川」を実践しており、児童会が中心となり、全校的な取り組みとなっている。	・決められた場所だけのあいさつではなく、いつでも誰にでもあいさつができる子になるよう促していく。 ・一部の児童だけでなく、全員がよさを見つけ合うことができるように実施方法の見直しを図る。また、良さの価値づけを教師がすることにより高い価値に気づいていけるようにする。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・生命の尊重への理解を深める指導を計画的に位置づける。 ・いじめや問題行動には素早く組織で対応する。 ・些細な子供の言動に敏感になり生徒指導事案の未然防止に努める。	B	・保護者アンケートの「悩みを相談する体制ができている」の評価が87%であった。さらに向上させる努力が必要である。 ・いじめや問題行動の対応にはエールぎふや子相等の連携を図り、組織で対応した。 ・ここタン入力の徹底を図ったり、子どもの言動に耳を傾け、確実に見届け、素早い対応を行った。	・悩みを抱えている児童、家庭もあるが、ここタン入力を呼び掛け、早期発見早期対応に心がけ、安心して登校できるよういじめ対策監を中心に働きかけている。 ・問題行動に対する対応を関係機関と連携を図りながら解決の手立てを導き出せるようにチームで対応できるように心がけた。	・学校になかなか足が向かない子に対して保護者と連携を密に取り、学びにくさがどこにあるかを関係機関と連携して探る。 ・年度初めに問題行動や支援の必要な児童の共通理解を図り、全校体制で支えていく。また、配慮を要する児童への指導の仕方についても共有していく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・環境面の安全確保に努める。 ・教育活動の充実のために、施設設備、教材等の効果的な活用を図る。 ・学校事故の未然防止のため、定期的に設備の点検、見回りの実施。	B	・日常的な環境点検や備品点検なども確実に実施し、安全の確保に努めた。 ・学校環境衛生活動の持続。	・日常的な備品、環境の点検を確実にを行うことで、学校内でのけがなどの事故への未然防止に努めることができた。今後も早期の対応に心がけたい。 ・学校環境衛生活動表彰を昨年受けた。環境整備への意識を今後も持続させたい。	・施設設備が古いため、修繕や改善の必要な箇所を見つけたら岐阜市へ速やかに要望を行う。 ・日常点検をおろそかにせず、目視だけでは点検を行い事故の未然防止に努める。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/iwa-e/>